



関東ジュニア大会18歳以下
女子単優勝 小林 ほの香 選手



関東ジュニア大会18歳以下
男子単優勝 川上 倫平 選手



CONTENTS

「テニスと音楽」

関東テニス協会会長 鏡味 徳房 ……………	3	DUNLOP SRIXON全日本ジュニアテニス選手権'17 ……	12
第91回 関東オープンテニス選手権大会 ……………	4	第3回グラスホパージュニアテニスカンプ ……………	13
第91回 関東ジュニアテニス選手権大会 ……………	6	第56回関東実業団対抗テニストーナメント ……………	14
PLAY & STAYイベントの報告		第32回関東実業団対抗テニスリーグ戦 ……………	14
第35回 第一生命 全国小学生テニス選手権大会 ……	9	第41回全日本都市対抗テニス大会 ……………	15
ATF 14/U須玉国際ジュニアテニストーナメント2017…	10	第72回国民体育大会(2017笑顔つなぐえひめ国体)…	15
第44回 全国中学生テニス選手権大会 ……………	11	第24回指導者のためのリフレッシュ講習会 ……………	16
平成29年度全国高等学校総合体育大会 ……………	11	委員会よりお知らせ(審判委員会・広報委員会) ……	16

**フェアプレイはスポーツの基本です。
テニスも例外ではありません。
それは、第一に対戦相手をリスペクトしてプレイすることです。**

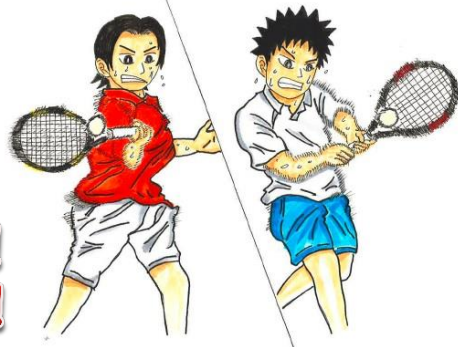
**試合前には元気に挨拶！
相手の目を見て握手をしましょう！**

よろしくお願いします！

お互いベストを
尽くしましょう！



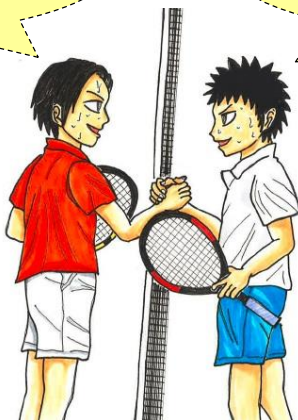
**フェアなプレイを心掛ける！
自分のベストを出し切る！**



**試合後は相手をリスペクトしよう！
相手の目を見て握手をしましょう！**

いい試合だったね！

今日のプレー
素晴らしかったよ！



公益財団法人 日本テニス協会



テニスと音楽



数年前にメンフィス・オープンで連覇を果たした錦織選手に、エルヴィス・プレスリーゆかりの地ということで、ギターの贈呈がありました。その際、同選手はピアノなら弾いたことがあるが、ギターは残念ながら弾けないと語ったことが報道されました。それから1年後、全豪オープンでジョコビッチ選手が優勝した後夜祭でギターを演奏している映像がテレビに流れたことがありました。

私事ですが、69歳頃からピアノの練習を始めたところ、軽い腱鞘炎を患った経験があります。ピアノ関係の書物を読むと、約半数の医師はピアニストに対し腱鞘炎などをひきおこすおそれがあるテニスを控えることを助言していることが分かりました。私の場合はピアノの練習時間を1日2時間以内とし、テニスは1時間以内とすることでなんとか両方を続けることができましたが、もっと練習時間が必要なピアニストには両立は難問かもしれません。

そのような経験から錦織選手はテニスを本格的に始める前にピアノを練習していたのではないかと、またその経験が神経の発達にプラスに働いたのではないかと想像しています。

ジョコビッチ選手のギター演奏はどの程度の腕前か分かりませんが、多分テニスに肉体的負担がかからない範囲内で行っているのでしょう。

腕などに物理的負担をかけない音楽としては歌があり、東京テニス協会の伍堂会長は年に数回リサイタルを開いておられます。伊達公子選手は全米オープンなどの大会中はカラオケで緊張緩和を図っていたと聞いたことがあります。

試合前にスマホなどで音楽を楽しむのも緊張緩和に有効ではないでしょうか。私が所属していたテニスクラブではロッカールームなどにモーツァルトをはじめとする様々な名曲がバックグラウンドミュージックとして流れており、疲れを癒してくれました。

音楽などのリズムは脳内ホルモンの分泌を促進し、精神を安定させる効果があるとされています。ミニテニスをリズムカルに行うのも精神安定に効果がありそうです。試合ではリズムに乗った方が勝率は高そうです。

関東テニス協会はじめテニス関係者の日頃のご労苦に感謝申し上げますとともに、その疲れを音楽などご自分に合ったやり方で癒し、益々ご活躍されますよう祈念いたしております。



関東テニス協会会長
鏡味 徳房

第91回関東オープンテニス選手権大会

一般の部:2017年5月15日(月)~5月20日(土) 有明テニスの森

ベテランの部:2017年5月15日(月)~5月21日(日) 有明(~20日)、小田原、大宮、フクダ電子(千葉) 5月22日(月)~5月29日(月) 昭和の森 5会場



一般の部

第91回関東オープン選手権大会一般の部は、有明テニスの森公園コートで開催され、天候に恵まれ順調に終了する事ができました。

男子シングルスは、激戦を勝ち進んだ松尾友貴選手が学生の徳本翔選手に打ち勝ち初優勝しました。

女子シングルスは新鋭同志の対戦となり、清水千夏選手が初優勝しました。

ダブルスは、男子は早稲田大学OBに慶応大学の現役選手が、女子はベテラン組がそれぞれ接戦の末優勝しました。

今大会はジュニア、学生等若手選手の活躍が目立ち、今後が期待される大会でした。



松尾友貴 徳本翔

○一般男子シングルス

松尾 友貴(橋本総業ホールディングス)	}	松尾	}	松尾 75.62
川上 倫平(荏原湘南スポーツセンター)		16.62.75		
徳本 翔(青山学院大学)	}	徳本		
綿貫 敬介(明治安田生命)		64.26.62		



畠山成牙 逸崎凱人 佐野紘一 飯野翔太

○一般男子ダブルス

佐野 紘一(伊予銀行)	}	佐野・飯野	}	畠山・逸崎 64.46. [10-4]
飯野 翔太(伊予銀行)		75.46[10-7]		
濱中 重宏(ひばりヶ丘新豊テニスクラブ)	}	畠山・逸崎		
金城 光(アスリードTA)		63.67(7).[10-7]		
徳本 翔(青山学院大学)	}	徳本		
正林 知大(中央大学)		63.67(7).[10-7]		
畠山 成牙(慶應義塾大学)	}	畠山・逸崎		
逸崎 凱人(慶應義塾大学)		63.67(7).[10-7]		



清水 千夏 藤岡 希

○一般女子シングルス

藤岡 希(福島けんしん)	}	藤岡	}	清水 63.46.62
古川 鈴夏(茨城県競技向上対策本部)		46.64.75		
清水 千夏(福島工業)	}	清水		
寺見 かりん(ラスタットテニスクラブ)		62.63		

○一般女子ダブルス

入江 真子(リコー)	}	入江・水沼	}	入江・水沼 64.57[10-3]
水沼 茉莉(リコー)		63.60		
山本 久美子(東洋英和女学院大学)	}	古川・寺見		
涌井 真耶(フリー)		75.61		
原口 沙絵(山梨学院大学)	}	古川		
吉富 夢子(山梨学院大学)		75.61		
古川 鈴夏(茨城県競技向上対策本部)	}	寺見		
寺見 かりん(ラスタットテニスクラブ)		75.61		



入江真子 水沼茉莉 古川鈴夏 寺見かりん

ベテランの部

第91回関東オープン選手権大会ベテランの部は、全日本ベテランに次ぐベテランJOPのBグレード大会として、5月15日(月)から2週間にわたり、有明、大宮、小田原、千葉、昭和の森の5会場で、各主管都県協会の運営、ご協力により開催されました。

今大会も、男子・女子とも35歳以上～85歳以上の単複合計39種目(女子35歳単複・女子80歳単・女子85歳単複は不成立)に、全国から1573人(組)の選手が参加し、各会場で熱戦が繰り上げられました。

80歳を過ぎてもなお競技としてプレーする選手の姿を見ると、生涯スポーツとしてのテニスの幅広さ、奥深さ、素晴らしさを改めて痛感させられました。

来年も参加される選手にとって、より良い大会になるようベテラン委員会を挙げて、努力していきたいと思います。

ベテランの部 優勝者・ペア

男子35歳以上S	向 和彦(アポロコーストテニスクラブ)	女子40歳以上S	高橋 えみ子(テニスプロジェクト)
男子35歳以上D	向 和彦(アポロコーストテニスクラブ)	女子40歳以上D	佐々木 美香(湘南ローンテニスクラブ)
	大久保 祐輔(アポロコーストテニスクラブ)		清家 麻理子(TAS)
男子40歳以上S	道田 光(TI-Cube)	女子45歳以上S	片山 恵子(マス・ガイアTC)
男子40歳以上D	小磯 尚義(atw)	女子45歳以上D	笠井 和子(松原TC)
	瀬川 雅(葉山テニスクラブ)		青木 奈央(IHSMアリーナ)
男子45歳以上S	佐藤 史高(JITC)	女子50歳以上S	河辺 美枝(巧庭球塾)
男子45歳以上D	佐藤 史高(JITC)	女子50歳以上D	橋本 淳子(ZEPHYR)
	渡邊 大(緑ヶ丘テニスガーデン)		高橋 正枝(マス・ガイアテニスクラブ)
男子50歳以上S	矢作 淳(オールウェイズテニスクラブ)	女子55歳以上S	小泉 幸枝(プロ・モリタテニス企画)
男子50歳以上D	相場 学(館林ローンテニスクラブ)	女子55歳以上D	小泉 幸枝(プロ・モリタテニス企画)
	松岡 豊武(プリヂェストンスポーツ)		幅 明美(川崎重工)
男子55歳以上S	原口 浩二(アルドールテニスステージ)	女子60歳以上S	森 秀子(荏原SSC)
男子55歳以上D	幸裕(S・T・P)	女子60歳以上D	本郷 美智子(東宝調布テニスクラブ)
	原口 浩二(アルドールテニスステージ)		森山 郁野(SPTC)
男子60歳以上S	山田 啓司(大竹市テニス協会)	女子65歳以上S	中島 小波(明治神宮外苑テニスクラブ)
男子60歳以上D	中井 敏夫(ロイヤルガーデンテニスクラブ)	女子65歳以上D	山田 弓子(中山テニスクラブ)
	中山 晴彦(アルドールテニスステージ)		境 真由美(横浜スポーツマンクラブ)
男子65歳以上S	塚本 邦男(塚本テニスカレッジ)	女子70歳以上S	北村 紀美子(青梅市テニス協会)
男子65歳以上D	塩見 芳彦(横須賀ダイヤランドテニスクラブ)	女子70歳以上D	関谷 淳子(京王テニスクラブ)
	麦 富栄(横須賀ダイヤランドテニスクラブ)		安川 広子(あたごテニスクラブ)
男子70歳以上S	桐原 清徳(和泉テニスクラブ)	女子75歳以上S	高橋 和子(武蔵野ローンテニスクラブ)
男子70歳以上D	酒井 国雄(立川グリーンテニスクラブ)	女子75歳以上D	日高 直子(東京ローンテニスクラブ)
	赤坂 欽一(名細テニスクラブ)		小田 晶子(東京ローンテニスクラブ)
男子75歳以上S	漆川 芳國(産総研)	女子80歳以上D	谷 喜美子(高井戸ダイヤモンドテニスクラブ)
男子75歳以上D	今中 隆雄(ブルドンウィン)		小林 サヨ(富士オオトミテニスクラブ)
	小篠 輝章(槻の森テニスクラブ)		
男子80歳以上S	生川 芳久(東京ローンテニスクラブ)		
男子80歳以上D	生川 芳久(東京ローンテニスクラブ)		
	鈴木 博武(横浜インターナショナルテニスコミュニティ)		
男子85歳以上S	岡田 進(三重グリーンテニスクラブ)		
男子85歳以上D	宮地 邦雄(アイ・テニスクラブ)		
	岡田 進(三重グリーンテニスクラブ)		

第91回関東ジュニアテニス選手権大会

2017年7月15日(土)～7月20日(木) 予備21日(金) 会場:アポロコーストテニスクラブ



○18歳以下男子シングルス

田形 諒平 (狛江インドアジュニアATPチーム)	}	田形 諒平	}	川上 倫平
佐野 有佑 (法政大学第二高校)		67(5)61,63		
松田 康希 (荏原SSC)	}	松田 康希	}	川上 倫平
高清水 研人 (日本大学第三高校)		61,64		
池田 悠人 (フミヤエース市川テニスアカデミー)	}	白石 光	}	川上 倫平
白石 光 (有明ジュニアテニスアカデミー)		63,60		
川上 倫平 (荏原SSC)	}	川上 倫平	}	川上 倫平
清水 一輝 (グリーンテニスプラザ)		46,64,75		

○18歳以下男子ダブルス

白石 光 (有明ジュニアテニスアカデミー)	}	白石・丹下	}	白石・丹下
丹下 将太 (早稲田実業学校高等部)		64,64		
露崎 翔太 (フミヤエース市川テニスアカデミー)	}	露崎・竹秋	}	白石・丹下
加藤 季樹 (法政大学第二高校)		(グリーンテニスプラザ)		
伊藤 竹秋 (グリーンテニスプラザ)	}	坂野・川上	}	白石・丹下
清水 一輝 (グリーンテニスプラザ)		(グリーンテニスプラザ)		
坂野 唯 (狛江インドアジュニアATPチーム)	}	坂野・川上	}	白石・丹下
川上 倫平 (荏原SSC)		(荏原SSC)		

○16歳以下男子シングルス

手塚 瀬留 (川越東高校)	}	田中 瑛大	}	松下 龍馬
田中 瑛大 (荏原SSC)		64,75		
松下 龍馬 (秀明英光高校)	}	松下 龍馬	}	松下 龍馬
平野 太陽 (TEAM YONEZAWA)		61,62		
守谷 岳 (浦和学院高校)	}	守谷 岳	}	松下 龍馬
石橋 琉 (川越東高校)		63,61		
鈴木 久統 (荏原SSC)	}	坂川 広樹	}	松下 龍馬
坂川 広樹 (楠クラブ)		62,61		

○16歳以下男子ダブルス

村松 陸 (東京学館浦安高校)	}	村松・石井	}	小高・望月
石井 涼太 (INABA T.S.)		63,61		
小出 雄也 (志津テニスクラブ)	}	小高・望月	}	小高・望月
鹿川 夏生 (Hills K-Nagatsuka TA)		(楠クラブ)		
坂川 広樹 (楠クラブ)	}	小高・望月	}	小高・望月
赤西 大樹 (初石テニスクラブ)		(初石テニスクラブ)		
小高 拓海 (埼玉平成高校)	}	小高・望月	}	小高・望月
望月 海琴 (埼玉平成高校)		(埼玉平成高校)		

○14歳以下男子シングルス

山田 倫太郎 (U.T.P.あたとTC)	}	山田 倫太郎	}	小泉 照毅
駒形 怜哉 (TEAM YONEZAWA)		60,64		
谷澤 和真 (橘学苑中学校)	}	谷澤 和真	}	小泉 照毅
大山 幹郎 (SOL Tennis College)		61,62		
三田 陽輝 (グリーンテニスプラザ)	}	小泉 照毅	}	小泉 照毅
小泉 照毅 (赤城アカデミーさくら野火止)		76(2),64		
角田 優太 (N・CSP)	}	時岡 宏斗	}	小泉 照毅
時岡 宏斗 (グリーンテニスプラザ)		(グリーンテニスプラザ)		

○14歳以下男子ダブルス

三田 陽輝 (グリーンテニスプラザ)	}	上野山・森田	}	上野山・森田
小泉 照毅 (赤城アカデミーさくら野火止)		61,75		
上野山 大洋 (上野山テニススクール)	}	駒形・野村	}	上野山・森田
森田 卓介 (一筆テニスクラブ)		(一筆テニスクラブ)		
石島 丈慈 (SSAレニクス)	}	駒形・野村	}	上野山・森田
笹元 紀吾 (小田急はたのテニスガーデン)		(小田急はたのテニスガーデン)		
駒形 怜哉 (TEAM YONEZAWA)	}	駒形・野村	}	上野山・森田
野村 侑平 (たちかわジュニアテニスアカデミー)		(たちかわジュニアテニスアカデミー)		



優勝 川上 倫平 (荏原SSC) 左
 優勝できたのは、去年の12月に荏原SSCに移り、高橋、今井両プロコーチの指導を受けハードな練習と弛まぬ努力の成果です。今後の課題はフィジカル面を強化し、どんなにハードな試合が続いてもプレーが崩れずコンスタントに勝ち続けること。夢はプロプレーヤーになり全日本タイトルを取りグラندスラムに出場して世界一位のプロテニスプレーヤーになることです。



優勝 松下 龍馬 (秀明英光高校) 左
 優勝できたのは、どんな時どんな相手でも前に向かって前進しようという気持ちを持続させ最後まで貫くことができたからです。今後の課題は如何なる試合でも集中力が欠けることなく維持、継続できるように努力すること。夢は全日本ジュニア優勝を目指して練習する。将来的には世界のグラندスラム大会に参加し、優勝を目指して練習を重ねていくことです。



優勝 小泉 照毅 (赤城アカデミーさくら野火止) 左
 優勝できたのは、全てのゲームに集中してプレーができたこと。自分の気持ちをコントロールして相手の動きが予測できたことです。課題はストローク、ボレーなど各ショットの技術の精度を上げ、的確に目標を捉えて打てるように練習することです。夢は全国ジュニア大会の優勝を目指すこと。世界で活躍できる選手になりたい。

○12歳以下男子シングルス

松岡 隼	(荏原SSC)	62,67(6)62	松岡 隼	76(2)63
金田 晴輝	(松原テニスクラブ印西)			
坂本 健英	(荏原SSC)	61,62	松岡 隼	76(2)63
石井 凌馬	(Team YUKA)			
増田 真吾	(U.T.PあたごTC)	63,63	石川 睦大	76(2)63
石川 睦大	(京王赤城アカデミー)			
茂木 一希	(浦和パークテニスクラブ)	64,60	茂木 一希	76(2)63
大熊 樂	(桜田倶楽部)			

○12歳以下男子ダブルス

石井 凌馬	(Team YUKA)	64,75	石井・松岡	64,26,10-6
松岡 隼	(荏原SSC)			
齋藤 真輝	(浦和パークテニスクラブ)	75,46,10-7	金田・多田	64,26,10-6
宮川 侑士	(浦和パークテニスクラブ)			
藤田 哲平吾	(西武ドームテニスコート)	75,46,10-7	金田・多田	64,26,10-6
増田 真吾	(U.T.PあたごTC)			
金田 晴輝	(松原テニスクラブ印西)	75,46,10-7	金田・多田	64,26,10-6
多田 歩純	(サムライテニス)			

○18歳以下女子シングルス

奥石 亜佑美	(浦和麗明高校)	61,63	内島 萌夏	26,76(4)64
矢田 智都奈	(東京学館浦安高校)			
内島 萌夏	(昭和の森ジュニアテニススクール)	36,75,61	内島 萌夏	26,62,76(8)
川岸 七菜	(リブレテニススクール)			
山崎 京花	(浦和学院高校)	63,62	西郷 里奈	26,62,76(8)
西郷 里奈	(志津テニスクラブ)			
毛塚 智瑛	(荏原SSC)	75,63	小林 ほの香	76(4)36,64
小林 ほの香	(荏原SSC)			

○18歳以下女子ダブルス

清水 里咲	(吉田記念テニス研修センター)	36,63,10-2	安藤・内島	64,46,10-6
矢田 智都奈	(東京学館浦安高校)			
安藤 優希	(TEAM 自由が丘)	63,61	鈴木・山崎	64,46,10-6
内島 萌夏	(昭和の森ジュニアテニススクール)			
鈴木 沙也伽	(浦和学院高校)	63,61	鈴木・山崎	64,46,10-6
山崎 京花	(浦和学院高校)			
都筑 はるな	(自由が丘インターナショナルテニススクウェア)	63,61	鈴木・山崎	64,46,10-6
矢間 美帆	(桜田倶楽部)			

○16歳以下女子シングルス

川村 茉那	(CSJ)	61,61	川村 茉那	76(5)64
吉川 ひかる	(リブレテニススクール)			
斉藤 唯	(TeamSatellite)	62,60	斉藤 唯	76(5)64
大川 美佐	(大磯テニスアカデミー)			
石橋 彩由	(アールヒルテニスクラブ)	75,36,62	石橋 彩由	76(5)64
丸 希星	(松原テニスクラブ印西)			
山崎 郁美	(志津テニスクラブ)	46,63,64	神島 舞	76(5)64
神島 舞	(桜田倶楽部)			

○16歳以下女子ダブルス

五十嵐 日和	(浦和学院高校)	46,75,10-2	田中・丸	63,60
星野 遥香	(与野テニスクラブ)			
田中 日南乃	(SOL Tennis College)	76(6)63	神島・成瀬	63,60
丸 希星	(松原テニスクラブ印西)			
川村 茉那	(CSJ)	76(6)63	神島・成瀬	63,60
園城 海遥	(東洋大附属牛久高校)			
神島 舞	(桜田倶楽部)	76(6)63	神島・成瀬	63,60
成瀬 優美	(TAI Tennis School)			



優勝 松岡 隼 (荏原 SSC) 左

色々なキャンプに参加し、コーチ、先輩など多くの方々から沢山のアドバイスを頂き、ストロークが安定し相手の動きがよく見えて攻撃を強めることが出来るようになりました。課題はストロークの安定性を高めメンタルがぶれないように努め精神面を鍛えることです。夏の全日本ジュニア大会の優勝を目指し、オリンピックでは金メダルを取る選手になりたい。



優勝 小林 ほの香 (荏原 SSC) 左

今大会ではフォアハンドのコントロールが良く正確に返球する事ができて、バックのダウンザラインに攻められたときは相手を追い込み、ウィナーショットにもなりました。課題はバックハンドの攻撃にバリエーションを増やし、バックでもしっかり打てるように練習していきたい。また大事なところでもセカンドサーブの攻撃力を上げて、攻められるようにしたいです。将来は四大大会に参加し、優勝を目指したい。オリンピックでもメダルを得られるような選手になりたい。



優勝 川村 茉那 (CSJ) 左

優勝できた要因は、ファーストサーブの精度が上がったこと、ストロークが安定し相手の動きが予測できたことです。課題は精神面を鍛え自らの気持ちを上手にコントロールすること。ネットプレーを練習し自信を持って打ち分けが出来るようにすることです。将来は世界で活躍出来るプロのテニスプレーヤーになることです。

○14歳以下女子シングルス

池田 涼子 (たちかわジュニアテニスアカデミー)	75,36,63	中川 由羅	64,61	古賀 彩花	63,75
西 飛 奈 (昭和の森ジュニアテニススクール)	64,62				
内田 結 菜 (むさしの村ローンテニスクラブ)	64,62				
中川 由羅 (K-Powersテニスアカデミーロードテニスカレッジ)	64,62				
金子 さら紗 (たちかわジュニアテニスアカデミー)	06,62,64	古賀 彩花	63,63	古賀 彩花	60,36,62
関口 裕 望 (高崎テニスクラブ)	60,36,62				
古賀 彩花 (吉田記念テニス研修センター)	60,36,62				
早重 果波 (あじさいMTCアカデミー)	60,36,62				

○14歳以下女子ダブルス

池田 涼子 (たちかわジュニアテニスアカデミー)	64,61	西・内島	46,64,10-8
金子 さら紗 (たちかわジュニアテニスアカデミー)			
小島 彩那 (グリーンテニスクラブ)	57,63,13-11	西・内島	46,64,10-8
内田 結 菜 (むさしの村ローンテニスクラブ)			
西 飛 奈 (昭和の森ジュニアテニススクール)	57,63,13-11	西・内島	46,64,10-8
内島 舞子 (昭和の森ジュニアテニススクール)			
中山 桜季 (ロイヤルSCテニスクラブ)	57,63,13-11	西・内島	46,64,10-8
早重 果波 (あじさいMTCアカデミー)			

○12歳以下女子シングルス

石井 さやか (Team REC)	63,62	石井 さやか	61,61	石井 さやか	46,60,62
林 鈴 (ひまわりテニスクラブ)	63,76(8)				
小高 未織 (昭和の森ジュニアテニススクール)	63,76(8)				
齋藤 咲良 (ミナミグリーンテニスクラブ)	63,76(8)				
クロスリー 真優 (ENDEAVOR)	63,75	丸山 麗菜	75,64	石井 さやか	46,60,62
松本 多恵 (高崎テニスクラブ)	62,63				
松田 光 (石井真テニスアカデミー)	62,63				
丸山 麗菜 (Team YUKA)	62,63				

○12歳以下女子ダブルス

金巻 知里 (薬山テニスクラブ)	75,36,10-4	西野・石井	64,16,10-5
石井 綾夏 (薬山テニスクラブ)			
クロスリー 真優 (ENDEAVOR)	62,62	西野・石井	64,16,10-5
小池 愛菜 (N-CSP)			
青木 舞帆 (桜田倶楽部)	62,62	西野・石井	64,16,10-5
太田 貴子 (成城ジュニアテニスアカデミー)			
西野 菜穂 (東京都テニス協会)	62,62	西野・石井	64,16,10-5
石井 さやか (Team REC)			



優勝 古賀 彩花 (吉田記念テニス研修センター) 左
優勝できた要因は6回戦全ての試合が自分から攻めるテニスを続けてできたことです。今後の課題は強い気持ちを持ち続けられるように精神面の強化をする事。攻める球のミスが減らすことです。
夢は全日本ジュニアの優勝を目指してベストを尽くすこと。将来はプロ選手になって世界で活躍する人になりたい。



優勝 石井 さやか (Team REC) 左
優勝できた要因は、各試合ともサーブをクロス、センターと打ち分けができたこと、ストロークはフォアハンドに回り込んで攻めることができた事です。課題はファーストサーブの確率を上げることです。
全小、全日本ジュニアの優勝を目指して頑張ります。将来は四大大会で活躍できる選手を目指します。

関東ジュニア選手権会場でのPLAY&STAYイベントの報告

第91回関東ジュニアテニス選手権大会に併設してテニスPLAY&STAY イベントが開催され、たくさんのジュニア選手に楽しんで頂きました。また、参加者同士の心温まる交流も出来ました。保護者、コーチの方々には深く感謝申し上げます。また、イベントを盛り上げて頂きました役員の方々には大変におつかれさまでした。

主催: 関東テニス協会

主管: 関東テニス協会強化普及指導本部 各委員会

実施日程: 2017年7月15日(土)から16日(日)

場所: アポロコーストテニスクラブ

講師: 横松尚志氏

補助役員: 協会1名 東洋学園大学テニス部 部員3名

実施内容

◎レッド・オレンジボールイベント(8歳程度のジュニア)

参加費用 無料 参加延べ20名

◎グリーンボールマッチ練習会(10歳程度のジュニア)

参加費用 1,000円/人/1回毎 参加延べ101名



上側: レッド・オレンジボール
下側集合写真: グリーンボール

第35回 第一生命全国小学生テニス選手権大会

平成29年7月28日(金)～30日(日) 会場:第一生命相模園グラウンドテニスコート

第35回第一生命全国小学生テニス選手権大会は、7月28日～30日、第一生命相模園グラウンドテニスコートにて開催された。予選を勝ち上がった男女各48名が出場した。会場は入口の門から道路が通り、左手には地勢を利用したスタンドがあるクレーコートが低部に5面、右手松林の奥には道路と同じ高さにクレーコート4面とその奥に5面のクレーコートが配置されている。

本年は、関東から男子東京8人、神奈川4人、埼玉2人の計14人、女子東京4人、千葉4人、神奈川3人、群馬1人、山梨1人の計13人が出場した。

関東勢男子は石川脩大(東京)、ボウルズ・ニコラス(神奈川)、大熊樂(東京)、坂本健英(神奈川)の4人がベスト8に勝ち上がった。女子は中里亜優菜(神奈川)、齋藤咲良(群馬)、西野菜穂(東京)、石井さやか(東京)、鈴木瑞希(千葉)、クロスリー真優(東京)の6人がベスト8に進出した。

男子ベスト4を目指す対戦では石川(東京)とボウルズ(神奈川)の関東勢同士の争いとなった。ボウルズは1セット目を4-6で落とすも、6-3、6-4と昨年より成長した姿を見せ逆転勝ちをした。また、大熊(東京)は昨年ベスト16進出の前田優(大分)との対戦となった。1セット目をタイブレーク7-6(3)で取るも、前田の粘り強い多彩なプレーに3-6、0-6と落とし逆転負けをした。坂本は中島暁(長野)との対戦になったが、7-5、2-6、6-4のフルセットの末準決勝に進出した。男子準決勝の一つは時折見せるトリッキーなドロップショットなど多彩なプレーでここまで勝ち上がってきた花田海翔(福岡)とボウルズ(神奈川)の対戦である。花田のプレーにボウルズはペースを掴めず、花田の6-2、6-4のストレートでの勝利となった。前田(大分)と坂本(神奈川)の戦いは、どちらかと言うと頭を使ったミスの少ない粘り強いプレーの前田と、堅実な強さを感じさせる坂本との対戦であったが、前田の6-2、6-3のストレートでの勝ちとなった。

男子決勝戦はタイプの似通った花田(福岡)と前田(大分)の楽しみな一戦となったが、前田が先に先に攻めて、固さの見える花田はそれに対応しきれない状態が続いて、6-2、6-3のストレートで前田が優勝した。

女子のベスト4をかけた戦いは、神奈川の中里亜優菜が虫賀心央(愛知)との対戦であったが、虫賀がパワーで圧倒し6-0、6-0のストレートで勝ち上がった。齋藤(群馬)は西野(東京)との対戦で、6-1、6-2のストレートでベスト4進出となった。石井(東京)はノーシードからベスト8に勝ち上がった鈴木(千葉)を6-1、6-3のストレートで退けた。クロスリー(東京)と虫賀愛央(愛知)の対戦は虫賀のパワー溢れる攻撃にクロスリーは良く対応し粘るが、6-4、7-5のストレートで虫賀が勝ち残る。女子準決勝は虫賀心央(愛知)と齋藤(群馬)の対戦である。虫賀姉妹の妹は圧倒的パワフルなショットで攻め続け齋藤を6-1、6-3で退けた。もう一つの準決勝はここまで全てストレートで勝ち上がってきた石井(東京)と虫賀姉妹の姉愛央との対戦である。1セット目石井が6-4、2セット目虫賀が6-2。1セットオールで迎えたファイナルセットは両者ともに死力を尽くしタイブレークの末7-6(3)で虫賀の勝ちとなった。

女子決勝は大会史上初の双子姉妹の対戦となった。

心央と愛央の決勝は、両者ともにパワフルなストローク戦となった。1セット目心央が7-5で制すると、愛央も負けじと2セット目を6-3で取返す。ファイナルは心央が6-3で取り、心央、妹の勝利となった。



男子入賞者 右から前田、花田、坂本、ボウルズ



女子入賞者 左から虫賀心央、虫賀愛央、石井、齋藤

ATF 14/U 須玉国際ジュニアテニストーナメント2017

2017年7月1日(土)～7月7日(金)山梨県北杜市・クラブヴェルデ



ATF(アジアテニス連盟)公認の14/U須玉国際ジュニアトーナメントが今年も実施されました。昨年より前週の須玉国際ジュニアWeek1に引き続き開催される形で実施され、その影響か今年は海外(香港など数名のチームで参加)からの参加が多くなりました。また上位者の大半を関東勢が占め、男女ともベスト8の内7名が関東勢となりました。男子決勝は予選から勝ち上がった松崎稜太郎(KCJテニスアカデミー)が6-3,2-6,6-3のフルセットの末、小泉熙毅(赤城アカデミー-さくら野火止)に勝利し、女子シングルス決勝は第2シードの金子さら紗(たちかわジュニアテニスアカデミー)が中山桜季(ロイヤルSCテニスクラブ)に6-4,6-2のストレートで勝利しました。また例年通りシングルス本戦はコンパストローにより32位まで決定し、各位ポイント付与および表彰を行いました。また今回も男女シングルス優勝者には、8月に行われるITF兵庫国際ジュニアテニストーナメントの予選出場権が授与されました。



<写真左から>

男子単準優勝の小泉熙毅、男子単優勝の松崎稜太郎、女子単準優勝の中山桜季、女子単優勝の金子さら紗

(男子シングルス順位) <1～10位まで>

- 優勝 松崎稜太郎(KCJテニスアカデミー)
- 準優勝 小泉熙毅(赤城アカデミー-さくら野火止)
- 3位 三田陽輝(グリーンテニスプラザ)
- 4位 亀井泰造(アウリンテニスクラブ)
- 5位 山田矢音(狛江インドアジュニアATPチーム)
- 6位 原田悠仁(大島フラワートテニスガーデン)
- 6位 三城諒真(荏原SSC)
- 7位 C.Liew(マレーシア)
- 9位 三和遥人(江坂テニスセンター)
- 10位 山内日斗(フミヤエース市川テニスアカデミー)

(女子シングルス順位) <1～10位まで>

- 優勝 金子さら紗(たちかわジュニアテニスアカデミー)
- 準優勝 中山桜季(ロイヤルSCテニスクラブ)
- 3位 武本萌衣(江坂テニスセンター)
- 4位 上伊倉理子(SYT月見野テニススクール)
- 5位 荒木莉渚(Team310V)
- 6位 高村英果(赤城アカデミー-さくら野火止)
- 7位 飯塚萌々子(赤城アカデミー-さくら野火止)
- 8位 倉林夢生(ミナミグリーンテニスクラブ)
- 9位 坂本千代里(エストテニスクラブ)
- 10位 長谷川采香(たちかわジュニアテニスアカデミー)



<男子ダブルス>

- 優勝 山内日斗(フミヤエース市川テニスアカデミー)
弘田将也(フミヤエース市川テニスアカデミー)
- 準優勝 三田陽輝(グリーンテニスプラザ)
小泉熙毅(赤城アカデミー-さくら野火止)



<写真左が山内・弘田組>

<女子ダブルス>

- 優勝 中山桜季(ロイヤルSCテニスクラブ)
岡本璃南(サムライテニス)
- 準優勝 坂本千代里(エストテニスクラブ)
桜林さくら(エストテニスクラブ)



<写真左が中山・岡本組>

第44回全国中学生テニス選手権大会

沖縄県沖縄市 沖縄県総合運動公園テニスコート・レクドーム 2017年8月19日(土)～24日(木)



- 団体戦 男子:昨年優勝の小平第二(東京)がベスト4にとどまった。ベスト8に日大第三(東京)、石神井東(東京)、聖徳学園(東京)、土浦第二(茨城)が入った。
- 団体戦 女子:2年続けて第一、第二シードの決勝戦となり、小平第二(東京)が城南学園(大阪)を降して優勝、昨年の雪辱を果たした。橘学苑(神奈川)、桐光学園(神奈川)がベスト4。ベスト8に明星(東京)が入った。
- 個人戦 男子シングルス:金田拓渡(千葉・鎌ヶ谷市第四)はノーシードからの決勝進出で惜しくも準優勝。ベスト4には山田倫太郎(東京・清瀬市清瀬第二)が入賞。ベスト8に4名。
- 個人戦 男子ダブルス:決勝は関東勢同士、ノーシードからの松尾・小林(茨城・土浦市土浦第二)vs小澤・中(東京・小平市小平第二)、小澤・中が優勝。
- 個人戦 女子シングルス:上位進出ならず、ベスト8に、伊藤汐里(埼玉・さいたま市常盤)、大橋由奈(東京・板橋区赤塚第二)、高橋礼奈(神奈川・相模原市田名)の3名。
- 個人戦 女子ダブルス:ベスト4に、東京・小平市小平第二の河野・西村と近藤・内島が進出。

団体戦では女子が上位を占め、男子は個人戦で成績を残した結果となりました。引き続き関東勢の活躍を期待します。

平成29年度全国高等学校総合体育大会テニス競技大会・ はばたけ世界へ 南東北総体2017

福島県会津総合運動公園テニスコート・あいづドーム 8月2日(水)～8日(火)



今年度の南東北総体は福島県会津市会津総合運動公園を会場として開催されました。

男子団体は秀明八千代(千葉)が2年生のエース白石 光選手の活躍で決勝まで駒を進めました。決勝は3月の全国選抜テニス大会準決勝でも対戦した相生学院(兵庫)でした。選抜大会では相生のエース菊地裕太選手との戦いを制した白石選手でしたが、惜しくも準優勝という結果でした。女子団体は早稲田実業(東京)が神鳥 舞選手、齊藤 唯選手の2人の1年生シングルの活躍で準決勝まで勝ち上がりました。準決勝では松商学園(長野)の3年生の粘りに屈し、昨年に引き続き今年もベスト4でした。



個人戦での関東勢は、男子シングルスベスト4に2年生の丹下将太選手(東京:早稲田実業)、白石 光選手(千葉:秀明八千代)が、ベスト8に3年生の武藤洸希選手(東京:大成)が2年連続で入りました。女子シングルスでは、2年生の輿石亜佑美選手(埼玉:浦和麗明)が準優勝をはじめ、ベスト8に2年生の安藤優希選手(東京:日出)、川岸七菜選手(神奈川:法政二)、西郷里奈選手(千葉:秀明八千代)の3名と、1年生の齊藤唯選手(東京:早稲田実業)の4名が入るという活躍でした。男子ダブルスは、1年生ペアの松下龍馬・間仲啓組(埼玉:秀明英光)がベスト4に入りました。

今年の南東北総体は、終わってみると団体戦・個人戦共に2年生や1年生が大活躍した大会でした。この経験を活かし、来年の三重県で開催される「2018 彩る感動 東海総体」では、関東勢がさらなる活躍をしてくれることを期待しています。

DUNLOP SRIXON全日本ジュニアテニス選手権'17

supported by NISSHINBO

2017.8.8~8.14 江坂テニスセンター 2017.8.9~8.17 韮テニスセンター



〇18歳以下男子シングルス

清水 悠太 (関西・西宮甲英高)	}	清水	}	清水
菊地 裕太 (関西・トップランAIOI)		64 50 RET		61 62
田中 瑛士 (北信越・東京学館新潟高)	}	田島	}	62 60
田島 尚輝 (関東・TEAM YONEZAWA)		62 60		

〇18歳以下女子シングルス

本玉 真唯 (関東・日出高)	}	佐藤	}	内島
佐藤 南帆 (関東・有明ジュニアTA)		62 61		61 75
内藤 祐希 (関東・TEAM YONEZAWA)	}	内島	}	62 76(4)
内島 萌夏 (関東・昭和の森ジュニアTS)		62 76(4)		

〇16歳以下男子シングルス

池田 朋弥 (東海・誉高)	}	藤原	}	山中
藤原 智也 (関西・東山高)		60 76(3)		64 63
山中 太陽 (関西・西宮TC)	}	山中	}	61 61
松下 龍馬 (関東・秀明英光高)		61 61		

〇16歳以下女子シングルス

坂詰 姫野 (関東・山梨学院高)	}	光崎	}	光崎
光崎 楓奈 (東海・h2ETC)		76(4) 75		63 16 76(5)
今村 咲 (関西・パブリックテニス小倉)	}	今村	}	63 63
川村 茉那 (関東・CSJ)		63 63		

〇14歳以下男子シングルス

山田 倫太郎 (関東・U.T.P.あごてC)	}	山田	}	末岡
角田 優太 (関東・N・CSP)		75 75		62 63
上野山 大洋 (関東・上野山TS)	}	末岡	}	60 61
末岡 大和 (関西・トップラン)		60 61		

〇14歳以下女子シングルス

森岡 きらら (関西・奈良国際TC)	}	森岡	}	松田
加藤 智子 (関西・TCコス・パ三国ヶ丘)		61 63		46 76(2) 62
長谷川 愛依 (東海・岐阜ITC)	}	松田	}	75 62
松田 絵理香 (関東・SSAレニックス)		75 62		

〇12歳以下男子シングルス

眞田 将吾 (東海・三重グリーンTC)	}	眞田	}	眞田
前田 優 (九州・ラフ)		63 64		60 60
坂本 健英 (関東・荏原SSC)	}	坂本	}	64 64
石川 晄大 (関東・京王赤城アカデミー)		64 64		

〇12歳以下女子シングルス

石井 さやか (関東・Team REC)	}	石井	}	安高
丸山 麗菜 (関東・Team YUKA)		46 63 60		60 60
安高 日渚莉 (九州・ABCテニスアカデミー)	}	安高	}	63 61
小林 杏菜 (九州・海の中道M&T)		63 61		

〇18歳以下男子ダブルス

清水 悠太 (関西・西宮甲英高)	}	}	清水・羽澤		
羽澤 慎治 (関西・西宮甲英高)			}	}	62 64
坂野 唯 (関東・狛江イントアジュニアATPチーム)					}
川上 倫平 (関東・荏原SSC)					

〇18歳以下女子ダブルス

宮本 愛弓 (関東・ローズヒルTC)	}	}	宮本・内藤		
内藤 祐希 (関東・TEAM YONEZAWA)			}	}	75 64
本玉真唯 (関東・日出高)					}
永田杏里 (東海南山高校女子部)					

〇16歳以下男子ダブルス

飯泉 涼 (関東・CSJ)	}	}	丸山・高畑		
加藤木 暁 (関東・埼玉平成高)			}	}	63 64
丸山 隼弥 (関西・トップランAIOI)					}
高畑 里玖 (関西・トップランAIOI)					

〇16歳以下女子ダブルス

西尾 萌々子 (関西・パブリックテニス洛西)	}	}	西尾・今村		
今村 咲 (関西・パブリックテニス小倉)			}	}	62 75
青木 乙葉 (東海・誉高)					}
光崎 楓奈 (東海・h2ETC)					

〇14歳以下男子ダブルス

小泉 熙毅 (関東・赤城アカデミーさくら野火止)	}	}	小泉・三田		
三田 陽輝 (関東・グリーンテニスプラザ)			}	}	64 63
水口 翔瑛 (関西・テニスプラザ尼崎)					}
原崎 朝陽 (関西・テニスプラザ尼崎)					

〇14歳以下女子ダブルス

山口 花音 (関西・城南学園)	}	}	森岡・松田		
武本 萌衣 (関西・城南学園)			}	}	67(4) 63 10-7
森岡 きらら (関西・奈良国際TC)					}
松田 絵理香 (関東・SSAレニックス)					

〇12歳以下男子ダブルス

石井 凌馬 (関東・Team YUKA)	}	}	宮崎・眞田		
松岡 隼 (関東・荏原SSC)			}	}	64 63
宮崎 優良 (東海・オニテニス)					}
眞田 将吾 (東海・三重グリーンTC)					

〇12歳以下女子ダブルス

河野 望奈 (中国・チェリーTC)	}	}	石井・西野		
高 絢果 (中国・UP.Set)			}	}	64 64
石井 さやか (関東・Team REC)					}
西野 菜穂 (関東・パリエース市川TA)					

第3回グラスホパージュニアテニスキャンプ

2017年8月17日(木)～8月23日(水) 於:グラスコート佐賀テニスクラブ



夢は『ウインブルドンへ』をスローガンにこれから世界に羽ばたくジュニア選手の育成の場としてウインブルドンでお馴染みの天然芝コートで14面有する『グラスコート佐賀テニスクラブ』にて、全国9地域47都道府県から選抜された「日本の将来を担う」小学校5・6年生を対象に128(男子64名、女子64名)による1週間滞在型テニスキャンプが行われました。

コート:天然芝14面、インドアハード2面、インドア砂入り人工芝2面、砂入り人工芝3面

宿泊地:北山少年自然の家

参加者:関東地域より、男子(10名)女子(10名)総勢20名

指導者:小西一三氏、小浦猛志氏、植田雄章氏、神谷勝則氏、館崎トレーナー、地域コーチ

講義:ヒトの身体づくりと運動 道上静香氏

観光:バルーンミュージアム見学・干潟体験「潟リンピック」

優れた選手になるには単にテニスの技術や体力の向上だけではなく日常生活や行動の質によって大きく差が現れてくるものである。との考えに「テニスと生活」というテーマのもとに1週間オンコート・オフコートを含めて選手達のレベルアップに取り組みました。

オンコート

「どうしたら生き残れるか」をテーマに感動を与えられる選手・応援したくなる選手、指導したくなる選手は自主性があり目がいいとの神谷勝則コーチのお話から選手一人一人が意識を高く持って基礎練習や空間認識を高める練習に取り組んでいました。

トレーニング

館崎フィジカルトレーナーの指導のもと基礎・バランス・フットワークなどテニスに必要な様々なトレーニングを行いその大切さを学びました。

試合

男子8チーム女子8チームに分かれ団体戦で優勝目指して戦いデビスカップ・フェドカップの雰囲気漂わせながらオーダーでの作戦・ベンチコーチ・応援等個人戦では味わえない緊張感と一体感を体験しました。

オフコート

1週間を通しての体調管理を学びましたが中には炎天下の日々で次第に食欲低下や睡眠不足で少し元気がなくなる選手も出てきて食事・睡眠・生活の重要性を肌で感じていました。夜には講義もあり道上静香先生の「ヒトの身体づくりと運動について」やオンコートやオフコートに於いても小西一三実行委員長・小浦猛志スーパーバイザーのテニス選手としての心得をお話していただきました。

今回で2回目の帯同となりましたがグラスコートの芝刈りやライン引きの見学も含め佐賀県での1週間を通して漠然と描いていた夢が現実に「ウインブルドンを目指す」に変わった選手が日に日に増えていったのを間近で感じる事ができました。この年齢でこのような貴重な体験をした子供達がすばらしい選手に成長し近い将来ウインブルドンの地で花咲くことを願います。



第56回関東実業団対抗テニストーナメント (ビジネスパル・テニス関東大会)

7月15日(土)～16日(日) 会場:山梨県甲府市の小瀬スポーツ公園



関東1都7県から男子16チーム、女子12チームが参加しましたが、2日間晴天に恵まれ、男子、女子ともに6チーム、全国大会出場チームを決定し、無事に閉会しました。

本大会における課題は2点考えられました。まず、全国大会への出場チームは、男女ともに茨城県のチームが決定しましたが、他の代表チームは東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県と都市部がほぼ独占しました。今後、大会を盛り上げるためにも各地域チームの戦力アップが重要であること。2点目は女子で地域からの参加チームが減少し続けており、更なる大会の工夫が必要と思われました。

一方、山梨県の公認ゆるキャラ武田菱丸を大会マスコットとして参加させたことで山梨県と本大会のPRができ、菱丸によるジャンケンゲームでは懇親夕食会がおおいに盛り上がりしました。

稿を終えるにあたり本大会運営関係者各位の多大なる御協力、御支援に深謝いたします。

※男女とも第6位まで入賞したチームが第56回全国実業団対抗テニス大会に出場します。男子・三井不動産は初優勝。※女子・三菱電機は15年ぶり3回目の優勝。尚、辞退があり7位日立AMS・佐和が出場する。



男子	所属	チーム名	女子	所属	チーム名
優勝	東京	三井不動産	優勝	神奈川	三菱電機
準優勝	東京	日立製作所本社	準優勝	東京	ヨネックス
3位	千葉	千葉市役所	3位	東京	NTTデータ
4位	埼玉	川口市役所	4位	千葉	千葉市役所
5位	茨城	日立AMS・佐和	5位	東京	JTB
6位	埼玉	長谷川香料	6位	山梨	山梨県庁
7位	群馬	群馬県教職員	7位	茨城	日立AMS・佐和
8位	千葉	J F E			

第32回関東実業団対抗テニスリーグ戦

平成29年9月8日(金)～10日(日) 会場:埼玉県さいたま市 大宮第二公園第1コート



大会期間中に雷雨中断があったものの、最終日は好天となり、男子は橋本総業ホールディングスが決勝でMS&AD三井住友海上を破って初出場・初優勝を飾った。同チームは予選から決勝まで全ポイント勝利の強さであった。女子は富士通が、文部科学省、ワールド航空サービスとの決勝リーグを僅差で制して初優勝を飾った。

本大会には、関東1都7県から男子16チーム、女子12チームが参加し、毎年レベルが上がっているが、今年度は特に男子にJTAランキング保持者を擁するチームが多く、レベルが高かった。上位チームと下位チームとの差はあるものの、上位チーム同士の対戦や下位チーム同士では僅差の対戦が多数あり、大きな応援が各所で起こるなど盛り上がった。

懇親夕食会は、さいたま新都心駅近くのホテルで160名以上を集めて盛大に開催された。初出場チームが11チームと多数あり、それぞれのチーム紹介や余興で大いに盛り上がり、互いに親睦を深めることができた。

全国実業団対抗テニストーナメントには、男子は上位3チーム、女子は本大会から1位、2位、4位の3チーム、および、ダイレクト・アクセプタンスの3チームの合計6チームが出場する。



	男子	チーム名	都県名	女子	チーム名	都県名
女子ダイレクト・アクセプタンス	1位	橋本総業ホールディングス	東京	1位	富士通	東京
チーム	2位	MS&AD三井住友海上	東京	2位	ワールド航空サービス	東京
(1)東京海上日動(東京)	3位	ワールド航空サービス	東京	3位	文部科学省	東京
(2)みずほフィナンシャル丸の内(東京)	4位	テニスユニバーズ	東京	4位	第一生命	東京
(3)三菱東京UFJ銀行東京(東京)	5位	三菱マテリアル	東京	5位	栃木県教職員	栃木
	6位	三菱電機	神奈川	6位	平塚市役所	神奈川
	7位	ルネサンス	千葉			
	8位	本田技術研究所・栃木	栃木			

第41回全日本都市対抗テニス大会

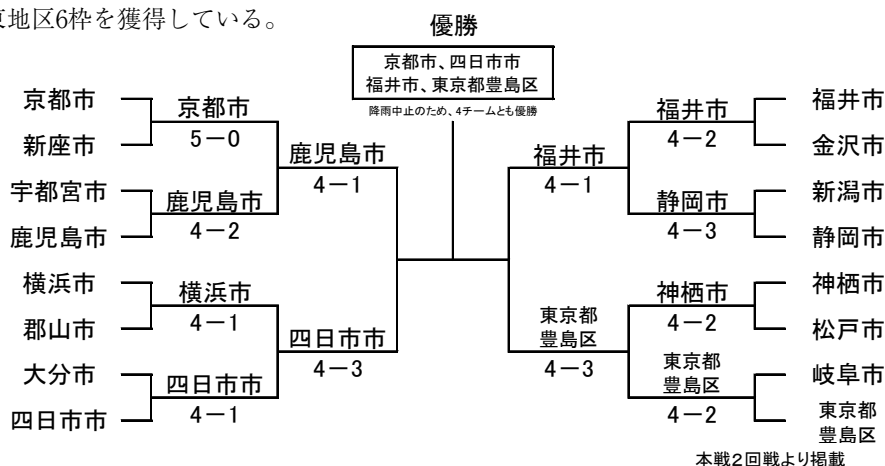
(福井しあわせ元気国体テニス競技リハーサル大会)

2017年7月21日(金)～23日(日) 於:福井県営テニス場



関東地区は本戦ストレートインの東京都豊島区、横浜市、松戸市、および関東地域予選を勝ち抜いた高崎市、新座市、宇都宮市、次年開催県神栖市の7チームが出場し、東京都豊島区、横浜市、そして二回戦で松戸市に勝利した神栖市がベスト8入賞した。準々決勝では東京都豊島区と神栖市の対戦となり接戦の末、東京都豊島区の勝利となった。横浜市はこちらも接戦であったが四日市市に屈した。最終日の準々決勝、決勝戦は降雨のため試合は行われずベスト4に進出した京都市、四日市市、福井市、東京都豊島区の4チーム優勝となった。松戸市、新座市、宇都宮市が2回戦進出、高崎市が初回戦敗退であった。

次年度参加枠は、全国9地域に基礎枠24を配分したところに、過去2年の成績を配点して算出したドント配分枠を追加して決める。神栖市で開催される2019いきいき茨城ゆめ国体リハーサル大会の参加枠は、関東地区6枠を獲得している。



第72回国民体育大会(2017笑顔つなぐえひめ国体)テニス競技

2017年10月1日(日)～4日(水) 於:松山中央公園テニスコート、愛媛県総合運動公園テニスコート

関東勢は成年女子、少年男子の活躍が目立った。成年女子は2位 埼玉、4位 東京、5位 茨城、7位 神奈川、8位 群馬と5都県が入賞、少年男子は1位 東京、2位 神奈川、4位 埼玉、5位 千葉と4都県が入賞、成年女子は2位 東京、6位 千葉であった。一方、成年男子の入賞は無く残念な結果となった。

テニス競技天皇杯(男女総合成績)は、1位 東京、4位 埼玉、6位 神奈川、8位 千葉の4都県が入賞、テニス競技皇后杯(女子総合成績)は、1位 東京、5位 埼玉、7位 茨城、の3都県が入賞となった。東京都の天皇杯・皇后杯の2冠制覇は東京国体2013以来4年ぶりの快挙であった。

次年度国体参加枠は、全国9地域に基礎枠24を配分したところに、過去2年の成績を配点して算出したドント配分枠を追加して決める。第73回福井しあわせ元気国体2018には成年女子は8枠を獲得したが、成年男子は4枠にとどまった。

第72回国民体育大会(2017笑顔つなぐえひめ国体) テニス競技1位～8位 成績一覧表

	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子		天皇杯(男女総合)		皇后杯(女子総合)
1位	愛媛県	愛媛県	東京都	愛知県	1位	東京都	1位	東京都
2位	福井県	埼玉県	神奈川県	東京都	2位	京都府	1位	京都府
3位	大阪府	京都府	岐阜県	京都府	3位	愛媛県	3位	愛知県
4位	京都府	東京都	埼玉県	島根県	4位	埼玉県	3位	愛媛県
5位	福岡県	茨城県	千葉県	大阪府	5位	大阪府	5位	埼玉県
6位	大分県	福島県	福岡県	千葉県	6位	神奈川県	6位	島根県
7位	兵庫県	神奈川県	京都府	三重県	7位	愛知県	7位	茨城県
8位	岡山県	群馬県	新潟県	広島県	8位	千葉県	7位	大阪府
					8位	福井県		
					8位	福岡県		

第24回指導者のためのリフレッシュ講習会

平成29年6月24日(土) 会場: 東洋学園大学流山キャンパス



公認:(公財)日本テニス協会 受講者:62名 指導者研修ポイント:2ポイント

第24回指導者のためのリフレッシュ講習会を6月24日(土)に東洋学園大学流山キャンパスで開催した。

榎本本部長より、スポーツ界で起こっている賭博、薬物使用問題が今後起こらないように指導をして欲しいと挨拶があった。その後、午前中は日本テニス協会の福井専務理事を招いて、リオデジャネイロ五輪と東京オリンピックに向けての取り組みについての講義を行った。指導者としての選手を育成する心構えや覚悟や今後のコーチングに必要な事についての講義をしていただいた。午後はテニスコートでアイデア練習というテーマで、古くなったバスケットボールやバレーボール、100円ショップのまな板を使ったボレー練習などのラケット以外のお金をかけない道具を使った練習方法を紹介した。指導の現場では様々な工夫を考へることが大切であり、福井専務理事の「学ぶことをやめた時、教えることをやめなければならない」という言葉を再確認できる講習会になったのではないかと思う。今後も指導者の知識や技術のレベルアップのための講習会を続けていきたい



委員会よりお知らせ



〈審判委員会〉

2017.3.12新宿スポーツセンターにて関東テニス協会主催のルール講習会が開催され、116名が受講しました。

日本テニス協会審判委員会委員長の大原泰次郎氏を講師にお迎えし、

- ① 練習は不可能を可能にする
- ② フェアプレーの精神の体得
- ③ 生涯の友を得る

小泉信三氏(教育者)の名言「スポーツが与える三つの宝」を教えていただき、テニスの素晴らしさを再認識いたしました。

また、今年のテニスルール改正点について、特に大幅に改定された服装規定を詳しく解説していただきました。数々の質問事項にも丁寧にお答えいただき、大変有意義な講習会でした。

次回は2018年3月11日(日)国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催いたします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、日本の審判部門にも更なるレベルアップが求められてまいります。多数の皆様のご参加をお待ちしております。



〈広報委員会よりのお願い〉

KTAニュースは今回の45号より、ホームページ掲載のみとなりました。昨年度の関東テニス協会常務理事会にて、財務改善策の一環として承認されたものですが、皆様のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

今後は、スマートフォン、タブレット、PCなど WEB対応の電子機器であれば、随時の閲覧、知人への通知・共有などもできるという利点もありますので活用頂きたいと存じます。また、旧版44号・43号・42号はホームページにも掲載していますのでご覧ください。

<http://www.kanto-tennis.com> <ニュース>からアクセス。

ジュニアテニス選手皆様へ
一般・ベテランテニス選手の皆様へ
指導者・保護者の皆様へ
大会主催者の皆様へ

テニス競技での セルフジャッジ5原則の 順守と推進のお願い

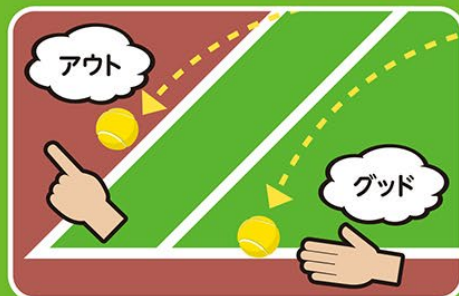


フェアプレイはスポーツの基本です。テニスも例外ではありません。それは、第一に対戦相手をレスペクトしてプレイすることです。

残念ながら、コート内では依然様々なトラブルが絶えません。その大半はポイントの判定に起因するもので、多くのテニス大会で採用されている「チェアアンパイアがつかない試合方法（セルフジャッジ）」が適切に行われていないことが背景にあると思われます。

そこで日本テニス協会は、プレイヤーの皆様、保護者、指導者そして大会主催者の皆様に、チェアアンパイアがつかない大会で正しいセルフジャッジを目指し、次のセルフジャッジ5原則の徹底とご理解をお願いすることとしました。

セルフジャッジでは、プレイヤーの人格が試されています。



セルフジャッジ5原則

- 1 判定が難しい場合は「グッド」（相手に有利に）！
- 2 「アウト」または「フォールト」はボールとラインの間に、はっきりと空間が見えたとき！
- 3 サーバーはサーブを打つ前、レシーバーに聞こえる声でスコアをアナウンス！
- 4 ジャッジコールは、相手に聞こえる声と、相手に見えるハンドシグナルを使って速やかに！
- 5 コートの外の人には、セルフジャッジへの口出しはしない！

保護者の皆様には、目前の試合の勝ち負けに一喜一憂することなく、スポーツマンシップに則ったフェアな試合がおこなわれるように、お子様への温かいご支援よろしく申し上げます。